

# KPO北京レポート

KPO北京事務所 崔 万哲

Tel: +86-10-8454-9400 Fax: +86-10-6282-7371

E-mail: [cuiwanzhe2001@126.com](mailto:cuiwanzhe2001@126.com) / [cuiwanzhe2001@hotmail.com](mailto:cuiwanzhe2001@hotmail.com)

## 1. トピックス

### ■ 17年、海外消費額が年間2千億元に

中国商務部（商務省）がこのほど明らかにしたところによると、中国は今や消費大国で、消費規模は世界2位になり、消費は4年続けて経済成長を牽引する第1の原動力になっている。

中国の経済成長は、従来の投資と輸出に偏重したものから、消費が牽引するものへと転換されつつある。海外での消費額のみを見ても、大まかな試算で、中国国民が年間に約2千億元を使い、その内容は高級品もあれば日用品も並ぶという。

同部の鐘山部長は、「中国には14億人近い人口がいて、中間所得クラスターがすでに4億人前後に達している。経済社会が発展を続けるのにもない、国民の収入も増加を続け、生活レベルも向上を続けており、消費の潜在力は非常に大きい」と分析している。

## 2. フライトスケジュール

### ■ 北京発 — 関空着（週）

就航期間	便名	日本着曜日	現地発時間	日本着時間	経由	備考	フライト時間
180301-180324	CA927	月火水木金土日	0840	1240		NH5722(S)	3:00
180301-180324	MU525	月火水木金土日	1010	1400		JL5676(S)	2:50
180301-180324	MU277	月 水 土	0915	1530	YNT	JL5656(S) YNT-KIX間のみ	5:15
180301-180324	ZH9055	月火水木金土日	1335	1720		NH6604(S)CA3355(S)	2:45
180301-180324	NH980	月火水木金土日	1430	1820		CA6655(S)ZH3215(S)	2:50
180301-180324	CA161	月火水木金土日	1605	2010		NH5724(S)	3:05

出所：関西国際空港

## 3. 現地の観光情報

### ■ ドイツとスペインの空港で微信による税還付サービスがスタート

税還付代行企業のグローバル・ブルーとテンセントとの業務提携により、独ミュンヘン空港は、欧州で初めて微信を用いた即時税還付サービスに対応する空港の一つとなった。

この微信による即時税還付サービスは、リアルタイム電子税還付の先駆者的存在であり、観光客の待ち時間をゼロにした点は注目に値する。グローバル・ブルーはこれまでもアリペイと協力して、還付された税金をアリペイ・ウォレットに即時入金するという全く新しい税還付システムを実施しており、同サービスはすでに、欧州にある14空港で展開されている。

スペイン・マドリード空港でも、微信による即時税還付サービスが始まっている。

アリペイと微信が次々と即時税還付サービスを始めたことで、中国人消費者は海外でより簡単に柔軟性の高い税還付サービスを楽しむことができるようになった。（[人民日報]）

### ■ 中国民間航空業、好調な成長を維持

中国航空運輸協会の李軍理事長はこのほど、中国は世界で最も潜在力と活力のある航空輸送市場になりつつあり、今後も好調な成長を維持していく見通しだと語った。

---

中国では現在、各公共交通機関のうち民間航空は旅客取扱量で最も速い成長を遂げている。統計によると、中国の民間航空業の旅客と貨物を合計した総輸送量は2017年、1083億トンキロに達し、前年比で12.5%成長した。旅客輸送量は延べ5億4900万人で12.6%増だった。(新華網)

#### ■中国青年代表団が訪日

中国青年代表団一行56人が1月29日から2月2日までの日程で日本を訪れ、東京・群馬などを精力的にまわった。特に群馬県では中小企業の取り組みについて、県職員からレクチャーを受け、その後、環境保護に力を入れている企業などを実際に視察した。日本の伝統文化及び学校教育の施設見学も訪日の目的の一つだった。

代表団メンバーは北京市や河北省の地方自治体に勤務する若者から構成され、日中会館の招きで訪日した。(中日友好協会網)

## 4. クローズアップ

### ■快適な[高鉄]の旅

春節に久々に天津へ出かけた。[高鉄]（高速鉄道を略して言う）での移動だった。約200キロの道のりを30分で結ぶ。車内空間や走行状態など実に快適だった。

国家旅遊局データセンターによると、今年の春節連休中、延べ3億8千万人が旅行に出かけ、なかでも個人旅行の割合が高く、高速鉄道や列車を利用した旅行は18.8%を占めたという。

中国の高速鉄道は2008年の北京五輪にあわせ、北京-天津間で初開通となった。現在、新型高速鉄道は「復興号」と称され、時速350キロで走る。中車唐山会社が開発したもので、北京-広州、北京-上海、上海-昆明、西安-成都といった路線でも旅客輸送の主力を担っている。

中国鉄道総会社のデータによると、2017年末時点で、中国の鉄道営業距離は12万7千キロに達しており、その内、高速鉄道はすでに2万5千キロに達している。過去5年間で、中国の高速鉄道は急成長を遂げている。2013年～2017年、全国における鉄道固定資産投資額は3兆9千億元、新規営業距離は2万9400キロ増となり、その内、高速鉄道は1万5700キロで、投資額が最も多く集中し、投入量が最も多い時期となった。

今後、中国の高速鉄道網は「八縦八横」、つまり国土の東西と南北をそれぞれ8幹線路線で結ぶという整備目標の実現を目指すという。2016年7月に公表された「中長期鉄道網計画」では、2020年までに、中国鉄道網営業距離は延べ15万キロ、その内、高速鉄道が3万キロとなり、「八縦八横」の主要路線をベースに、地域連絡線が繋がり、都市間鉄道が補助となる現代高速鉄道網が構築される見通しだ。

中国の高速鉄道は、優れた技術力、安全性、それからコストパフォーマンスが高いとされ、海外からも大きな注目を集めている。

2015年10月、中国鉄道総会社をはじめとする中国企業連合体はジャカルタでインドネシアの国有企業と合弁企業を設ける協定を締結し、ジャカルタ・バンドン高速鉄道を建設・運営することで合意した。そして、クアラルンプール＝シンガポール高速鉄道計画へも積極的に参画している。

[高鉄]は、いまや中国のもう一つの顔なのかもしれない。

(了)